

うえなえ

Vol.401 2021.10

心のアート展 In 植苗病院・柳町診療所

東胆振精神保健協会主催で毎年行われている「心のアート展」が、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。今号では当法人から出品予定だった作品を展示した様子を報告します。

「心のアート展」は、精神的な病気や障がいを持ちながら地域で生活されている方々を対象にした文化作品コンクールとして、苫小牧保健所や東胆振管内の市町村の職員、関係機関で組織される「東胆振精神保健協会」が主催し、今年で19回目を迎えようとしていました。ここ数年は、苫小牧イオンショッピングセンターで展示会が開かれています。今回も9月11日(土)～12日(日)で予定されており、当院に入院中の患者さんやサテライトクリニックの柳町診療所デイケアに通所しているメンバーが作品を創作していました。

しかし、新型コロナ感染拡大により道内にも緊急事態宣言が出されたことにより、今年度の展示会が急遽中止となってしまい、作品がお披露目される機会を失ってしまいました。このため、創作活動を近くで見守っていたスタッフより「せめて広報誌でお披露目する機会を作ってほしい」と相談があり、今回応募された当院入院中の患者さんと柳町デイケアに通所しているメンバーの作品を掲載することにしました。

植苗病院では2階食堂ホールに「植苗作品ギャラリー」として作品が展示され、沢山の方に足を止めて観ていただきました。柳町診療所でも、9月中旬より外来ホールに作品を展示し受診に来られた方々に観ていただきにくだけではなく、通常の展示会と同じように多くのコメントも頂きました。9月いっぱい終了し、集まったコメントは記念品と共に創作されたメンバーに渡すことができました。

来年は、ぜひ展示会が開催されることを願っています。紙面上ではありますがあなたがご覧になっていたら幸いです。



上：植苗病院食堂ホールに展示された作品
下：柳町診療所での展示の様子



柳町診療所で展示されていた作品



千歳市社会福祉協議会
千歳市成年後見支援センター
榎間 育代さん

広報委員：社会福祉協議会（以下社協）には色々な役割があると思いますが、榎間さんが現在担当されているお仕事の内容と、あわせてご自身の略歴についても教えて下さい。

榎間さん：6年前から日常生活自立支援事業（以下日自）専門員として仕事を始めました。2016年から法人後見事業・緊急事務管理、2019年から成年後見支援センターが始まりましたので、そちらの仕事も兼務しています。仕事内容は多岐にわたりますが、お金に困っている方の相談に乗ることがメインです。どういった支援が使えるのかを提案し、日自を利用される場合には契約までを担当して、支援計画を作成から生活支援員さんに依頼します。成年後見支援センターとしては制度についての説明をしたり、ご家族やご本人からの相談に乗ったりなど制度を利用するための支援をしています。元々福祉の仕事をしていたわけではないので知識は仕事をしながら日々勉強中ですが、その人らしい生活を送っていただけるためのお手伝いができるこの仕事が好きなので苦にはなっていません。

広報委員：蓮げ荘大山さんから日自の利用者数や、日自から成年後見制度の利用に移行した事例、市民後見人の活動について等の質問がきいていますのでお答えいただけますか？

榎間さん：日自は常に23～24人の方が利用されています。千歳市は半分以上が精神障害の方の利用で、道内でも珍しいパターンだそうです。日自を利用されていた高齢の方が施設入所に際して成年後見制度に移行されるなど、日自から成年後見に移行したケースは2016年から今までに3件ありました。昨年実施した市民後見人養成講座を17名の方が修了され、現在5名の方が社協の行っている法人後見の後見支援員として活動中です。後見支援員として経験を積まれた方がいすれば市民後見人として活躍していただけるように、成年後見支援センターとしてもサポートできる体制を整えながら第一号の誕生を心待ちにしています。

広報委員：普段どのような機関と「連携」されていますか？なかでも医療機関とはどのように「連携」をされているのか教えてください。

榎間さん：地域包括支援センターや相談支援事業所といった福祉系のところから医療機関・行政機関など連携先は多岐にわたります。支援に入る時に協力ををしていただいたり、情報共有をしたり、担当者会議に参加したりなど連携の内容は様々ですし、特に日自については福祉課保護係のケースワーカーさんから依頼が入ることもあります。医療機関との連携ですと、高齢の方の場合はその方を担当しているケアマネージャーさんが窓口になつてくださることが多いですが、受診に付き添って主治医の先生と直接お話することもあります。成年後見制度では診断書や書類の作成をお願いすることも多いのでソーシャルワーカーさんとの連携も欠かせません。

広報委員：医療機関と今後どのような「連携」ができるかといいとお考えですか？

榎間さん：利用者さんの中には体調を崩し、入院される方も多いので医療機関に相談が出来るのは心強いと思っています。千歳市内にお住まいの方の支援なので基本的には市内で完結しますが、植苗病院に入院中の方が退院後に日自を利用される場合などには植苗病院まで駆けつけます！

広報委員：最後に千歳市役所障がい者支援課小島さんへの質問をお願いします。

榎間さん：千歳市内に就労支援事業所、作業所などは何件ありますか。また、利用されている方の人数を教えてください。

広報委員：榎間さん、お忙しい中どうもありがとうございました。



社協 榎間さん

活動報告



農耕活動（植苗病院）

農耕活動で果肉が赤と黄色のスイカが収穫されました。鹿に邪魔されず大きくなったスイカは甘くて美味しかったようです。

長髪のあの娘にあげる櫛ひとつ

★光伸

スポーツの楽しきくれたパラ五輪

★克彦



最近犬を飼い始めました。柴犬の女の子です。生後2ヶ月で家にやってきました。女の子は性格的におとなしく、育てやすいとのことで安心していましたが、おとなしかったのは最初の数日だけでした。とてもやんちゃで撫でさせてくれません。

しつけの本を読んで実践してみても、全然その通りにならないし、トイレも失敗ばかり。今やっていることは間違っているのかな?このまま成長してしまったらどうしよう?と不安になる毎日でした。

ある日動物病院を受診した際、獣医さんから「とても性格のいい子だから大丈夫。焦らずに今の対応を続けてください。」と言ってもらえて一安心。それからはあまり気負わずに接することが出来て、失敗にも一々落ち込むこともなくなりました。今は少しずつ撫でさせてくれる時間が増えて、トイレが成功する回数が増えてきています。初めてトイレが成功した時は家族と抱き合い喜びを分かち合った程です。

すぐに焦って不安になってしまふ自分の悪い癖を反省しつつ、あっという間に終わってしまう子犬時代をもっと楽しみたいと思います。



コロナ禍でカミュの「ペスト」とSF作家小松左京の「復活の日」が読まれているといわれる。「ペスト」という小説は、流行するペストのためにロックダウンされたアルジェリアの街オランで、市民全体や主人公の医師リューを取り巻く人々がどう病と闘ったかの物語である。「復活の日」はこの「ペスト」も意識して書かれ、1964年の東京オリンピックの年に発売された。イギリスの細菌研究所からスペインに盗まれた新型ウィルスが世界的なパンデミックを引き起こし、人類は滅亡の危機に瀕する。その混乱のさなかに核戦争も勃発し、南極でわずかに生き残った人々による復活の物語である。

今回のコロナ禍と重ね合わせながら読めるこうした物語は、新型コロナに関連した科学的エビデンスや政府やマスコミやSNSなどからの情報とはまた一味違った意味合いで、コロナ禍に立ち向かうための考える材料となり心の糧となってくれる。優れた物語の力は信頼に値するものだ。きっと今回の経験がまた新たに優れた物語を生み出していくことだろう。個人的には、パンデミックと気候変動と中国ですら採用する資本主義システムの危うさ、あるいはその崩壊が絡み合った物語が書かれるのではないかという気がしている。

(T.M)

お知らせ

◆ 外来休診のお知らせ ◆

社会医療法人こぶしでは12/28（火）～1/3（月）の間、外来診療が休診、巡回バスが下記の様に変更になります。ご利用されています皆様にはご不便をおかけいたしますが、よろしくお願ひいたします。

	12/27 (月)	12/28 (火)	12/29 (水)	12/30 (木)	12/31 (金)	1/1 (土)	1/2 (日)	1/3 (月)	1/4 (火)
外 来	通常診療	休 診						通常診療	



病む人と出会い

病む人を支え

病む人に学ぶ

発 行
社会医療法人こぶし広報委員会
苦小牧市字植苗52-2
TEL:0144-58-2314
<http://www.uenae-hp.or.jp/>



美味しいいただきました。

<後記>

職場のスタッフが自宅で野菜育てています。毎年、育てたトマトなど持ってきててくれて、美味しいごちそうになります。写真はそのスタッフが愛情込めて作ったブドウです。甘くておいしかったです。ごちそうさまでした。(Y)